

一般社団法人大学英語教育学会

平成 26 (2014) 年度事業状況報告書

定款第 5 条第 1 項の (1) から (6) に掲げる平成 26 年度の事業計画実施概要の報告は下記の通りです。

記

1 号事業報告：大会セミナー等事業

(1) 第 53 回 (2014 年度) 国際大会の開催

平成 26 年 8 月 28 日から 30 日まで広島市立大学 (広島県広島市安佐南区) において、「平和と友好をめざす英語コミュニケーション力の育成」をテーマに第 53 回 (2014 年度) 国際大会を開催した。参加者数約 800 人。基調講演 2 件, 海外提携学会代表による招待講演 6 件, 国内招待講演 3 件, 全体シンポジウム 1 件, 賛助会員特別シンポジウム 1 件, 特別委員会報告 3 件, 特別委員会中間報告ポスターセッション 1 件, 運営委員会ポスターセッション 1 件, 中国・四国支部企画シンポジウム 1 件が行われた。さらに, グローバル人材育成シンポジウム 1 件, グローバル人材育成特別企画ポスターセッション 46 件が行われた。その他, 研究発表, 実践報告, 事例研究, シンポジウム, ポスターセッション, ワークショップの分野で発表が行われた。

会員には, 12 月に刊行した『JACET 通信 192 号』にて全体報告と, 基調講演, 招待講演, 全体シンポジウム, 支部企画, 特別企画の報告を行った。『JACET 通信 192 号』は学会ホームページに掲載された。後援名義許可をいただいた文部科学省, 広島市立大学, 広島県教育委員会, 広島市教育委員会, 広島観光コンベンションビューローに事業実績, 決算報告を行った。

(2) サマーセミナーの開催

平成 26 年 8 月 18 日から 21 日に草津スカイランドホテル (群馬県吾妻郡草津町) において参加者 54 名で JACET 第 41 回 (2014 年度) サマーセミナーを行った。“CLIL and Content-based Language Teaching: New global perspectives on bilingualism and immersion” (CLIL と内容基盤型言語教育: グローバルの視点からのバイリンガルとイマージョン) のテーマのもと, 講師に Roy Lyster 氏, 池田真氏, Carol Inugai-Dixon 氏を迎え, 公募による参加者の発表も行った。活発な論議が展開され, 参加者からも好評であった。講演および発表内容をプロシーディングとしてまとめて刊行した。

(3) 英語教育セミナーの開催

平成 26 年 12 月 6 日に愛知大学 (名古屋校舎) において, JACET 第 2 回 (2014 年度) 英語教育セミナーが「小中高大連携の現状と課題」をテーマに開催された。岡田伸夫氏の「教育における縦と横の連携—英語教育の連携を中心に」という演題の基調講演とともに, TOEIC 三橋峰夫 (R&D 主席研究員), 英検塩崎修健 (教育事業部長代理), Benesse 小田切一弘 (高大接続課) らによる「英語資格(検定)試験を活かす」をテーマとした講座 I, 磐崎弘貞 (筑波大学教授) による「学習英語辞典を活かす」エラーから見る高頻度語義バイアスと文脈の収束性という講座 II, および賛助会員 5 社 (三修社, 金星堂, ピアソン, チェル, NEC) による「出版社教材を活かす」をテ

一マとした講座 III が開催された。さらに、「小中高大連携を基盤にしたグローバル人材育成に寄与する大学英語教育の展望」というタイトルでパネルディスカッションを開催し、Panelists: 山下敦子 (岐阜市立鶉小学校教頭), 熊谷紀孝(愛知県立田口高等学校教諭), 太田光春 (文部科学省視学官), 宮浦国江 (愛知県立大学教授/教養教育センター長), Moderator: 大森裕實 (愛知県立大学教授/JACET 理事)らをパネリストとして迎え活発な議論が交わされた。小学, 中学, 高校, 大学等の英語教員, および英語教育関係者約 90 名が集まり, 講演, 質疑応答, 討議を通じて, 英語教育における小中高大連携の実態を正確に把握することのできる充実した内容を展開し, グローバル人材育成に重要な役割を担う大学英語教育の改善と発展に寄与することができた。

(4) 支部大会の開催

以下のように各地で支部大会を開催した。支部大会で披露された研究成果や知見が各研究者の研究活動に大きな道標となった。また, 研究大会については, 各支部ニューズレターで報告された。

- ・ 北海道支部大会 平成 26 年 6 月 28 日
- ・ 東北支部大会 平成 26 年 7 月 6 日
- ・ 関東支部大会 平成 26 年 6 月 29 日
- ・ 中部支部大会 平成 26 年 6 月 7 日
- ・ 関西支部大会 (春季)平成 26 年 6 月 14 日, (秋季) 11 月 29 日
- ・ 中国・四国支部大会 平成 26 年 6 月 7 日
- ・ 九州・沖縄大会 平成 26 年 7 月 5 日

(5) 支部講演会の開催

以下のように, 各支部において講演会が開催された。講演会で披露された研究成果や知見が各研究者の研究活動の大きな道標となった。

- ・ 関東支部講演会 平成 26 年 4 月 12 日, 9 月 20 日, 10 月 11 日, 12 月 13 日, 平成 27 年 1 月 10 日
- ・ 関西支部 1~3 回講演会 平成 26 年 7 月 5 日, 10 月 18 日, 平成 27 年 3 月 7 日
- ・ 九州・沖縄支部学術講演会 (春期) 平成 26 年 7 月 5 日, (秋期) 11 月 22 日

(6) 支部研究会等の開催

以下のように各支部において研究会が開催され, これらの研究会で披露された研究成果や知見が各研究者の研究活動の大きな道標となった。

- ・ 北海道支部研究会 平成 26 年 5 月 31 日, 11 月 8 日, 平成 27 年 3 月 7 日
- ・ 東北支部例会 平成 26 年 11 月 30 日
- ・ 関東支部月例研究会 平成 26 年 5 月 10 日, 7 月 12 日, 11 月 8 日
- ・ 中部支部 平成 26 年 10 月 11 日, 平成 27 年 2 月 28 日
- ・ 中国・四国地区大学間連携イベント大学生 Oral Presentation & Performance (OPP)研究会 平成 26 年 12 月 14 日

2号事業報告：出版物刊行事業

(1) 『紀要』の刊行

① 平成27年1月30日に『JACET Journal』59号を刊行。掲載論文 10件。

会員より応募された論文、リサーチ・ノート、及びブックレビューの3つの分野における論文を厳正に審査し、掲載、非掲載を決定した。それぞれ会員及び英語教育関係者、及び国立国会図書館、国立情報学研究所へ送付した。海外提携学会等へも送付し、日本の英語教育研究の最新情報を発信した。

(2) 『Selected Papers』の発行

平成26年12月25日『JACET International Convention Selected Papers』1号を発行

国際大会で口頭発表（一般ポスター発表も含む）した発表者の学術研究を奨励し、論文発表の機会を与え、また海外の学会や英語教育関係者に日本の研究をリアルタイムで発信するため、電子ジャーナル(オンライン)として発行した。内容は Invited Papers 3編 (Susan Bassnett 氏, Ken Hyland 氏, Alan Hirvela 氏) Selected Papers 4編, 全投稿数20編であった。また、2号発行のために、発行スケジュールを決定した。JACET ウェブサイト上に Submission Guidelines とテンプレートを掲載するとともに、投稿原稿の記録と査読者割り振りの簡便化を図るため、オンラインフォームを作成し、投稿を受け付けた。選考委員会に投稿された原稿の査読を依頼しており、2号は平成27年8月中旬発行予定である。

(3) 『JACET 通信』の刊行

① 平成26年7月1日に『JACET 通信』191号（日本語、ウェブ版）を刊行。

② 平成26年12月1日に『JACET 通信』192号（日本語、印刷版およびウェブ版）を刊行。

③ 平成27年3月1日に『JACET 通信』193号（英語、ウェブ版）を刊行。

以上、合計3回の通信の刊行を行い、大学英語教育関連の情報発信に寄与した。学会の最近の動向や優秀な大学英語教育を紹介することにより、会員の大学英語教員としての意識を向上させることができた。また、国内の他学会からの寄稿により、学際的な教育や研究の動向を知ることができた。

(4) 支部紀要の発行

各支部で紀要を発行し、会員及び英語教育関係者等へ送付した。支部紀要は、支部会員の学術研究を奨励し、論文発表の機会を与えた。また、日本の英語教育研究の最新情報を発信した。

- 『北海道支部紀要 Research Bulletin of English Teaching No.12』 平成27年3月10日
- 『関東支部紀要』2号 平成27年3月31日
- 『中部支部紀要』12号 平成26年12月20日
- 『JACET 関西支部紀要』17号 平成27年3月31日
- 『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』12号 平成27年3月31日
- 『Annual Review of English Learning and Teaching』19号 平成26年11月30日

(5) 支部ニューズレターの発行

各支部でニューズレターを発行し、支部活動動向や、支部会員への英語教育に関する情報提

供と情報交換を行った。

- JACET 東北支部通信 41 号 平成 27 年 3 月 31 日
- 関東支部ニューズレター3・4号 平成 26 年 10 月 8 日, 平成 27 年 3 月 31 日
- JACET Chubu Newsletter No.32・33 平成 26 年 5 月 10 日, 12 月 20 日
- 関西支部ニューズレター68・69・70号 平成 26 年 5 月 1 日, 7 月 26 日, 10 月 18 日
- 中国・四国支部ニューズレター13・14号 平成 26 年 9 月 30 日, 平成 27 年 1 月 31 日
- 九州・沖縄支部ニューズレター 30 号 平成 26 年 4 月 15 日

3号事業報告：表彰事業

(1) 大学英語教育学会賞の表彰

第 53 回（2014 年度）国際大会の最終日（平成 26 年 8 月 30 日）に英語教育における研究または実践上の顕著な業績を通してわが国における大学英語教育の改善と進歩・発展に寄与した本学会員である個人または団体に対して表彰を行なった。受賞者に対しては賞状とともに記念品を贈呈した。

平成 26 年度大学英語教育学会賞

学術出版部門

受賞者：大津由紀雄氏（明海大学），鳥飼玖美子氏（立教大学），岡田伸夫氏（関西外国語大学），田地野彰氏（京都大学）

対象業績：『学習英文法を見直したい』（研究社，2012 年 7 月発行）

実践部門

受賞者：吉村俊子氏（花園大学），安田 優氏（北陸大学），石本哲子氏（大谷大学），齋藤安以子氏（摂南大学），坂本輝世氏（京都大学大学院生），幸重美津子氏（京都外国語大学），野口ジュディー氏（武庫川女子大学），森永弘司氏（同志社大学），竹村理世氏（同志社大学），松岡信哉氏（龍谷大学），田中敦子氏（関西外国語大学），Pavloska, Susan 氏（同志社大学），藤澤良行氏（大阪樟蔭女子大学），多田稔氏

対象業績：『文学教材実践ハンドブック—英語教育を活性化する—』（英宝社，2013 年 9 月 30 日発行）

新人発表部門

受賞者：加藤由崇（京都大学大学院生）

対象業績：研究発表“Helping Learners to Improve Their Speaking Skills: How Should We Encourage Them to Reflect on Their Own Speech?”（大学英語教育学会第 53 回（2014 年度）国際大会 2014 年 8 月 28 日発表）

4号事業報告：協力事業

(1) 関係学術団体への派遣

① KATE (The Korea Association of Teachers of English)

平成26年7月4日から5日に大韓民国で開催された KATE 2014 International Conference に本学会より学会代表者1名を遣し、研究発表を行なった。大会参加の成果は学会ウェブサイトに掲載。

② RELC (Regional Language Centre)

平成26年4月14日から16日にシンガポール共和国で開催された RELC Seminar 2014 に本学会より学会代表者1名を派遣し、研究発表を行なった。大会参加の成果は学会ウェブサイトに掲載。

③ PKETA (Pan-Korea English Teachers Association)

平成26年10月18日に大韓民国で開催された PKETA 大会に本学会代表者1名を派遣し、研究発表を行なった。大会参加の成果は学会ウェブサイトに掲載。

④ ALAK (The Applied Linguistics Association of Korea)

平成26年9月27日に大韓民国で開催された ALAK 2014 International Conference に本学会より学会代表者1名を遣し、研究発表を行なった。大会参加の成果は学会ウェブサイトに掲載。

⑤ ETA-ROC (English Teachers' Association of Republic of China)

平成26年11月14日から16日に台湾で開催された The 23rd International Symposium and Book Fair on English Teaching に本学会より学会代表者1名を遣し、研究発表を行なった。大会参加の成果は学会ウェブサイトに掲載。

⑥ CELEA (Chinese English Language Education Association)

平成26年10月23日から26日に中国において開催された CELEA の国際大会に学会代表者1名を遣し、研究発表を行なった。大会参加の成果は学会ウェブサイトに掲載。また今回は AILA-East Asia のシンポジウムが開催されるため、会長も派遣した。

⑦ Thai TESOL (Thailand TESOL)

平成27年1月29日から31日にタイ王国で開催された第35回 Thai TESOL 国際大会に本学会代表者1名を派遣し、研究発表を行なった。大会参加の成果は学会ウェブサイトに掲載。

⑧ AILA (Association Internationale de Linguistique Appliquée)

平成26年8月10日から15日にオーストラリアにて開催された AILA の EBIC business meeting に山内ひさ子副会長を代表者として派遣した。EB会議への参加を含む、AILA 大会において学術交流および情報交換を活発にして研究活動を促進するよう努めた。大会参加の成果は報告書として理事会に別途提出済みである。

⑨ MELTA (Malaysian English Language Teaching Association)

平成26年8月28日から30日にマレーシアで開催された 23rd MELTA INTERNATIONAL CONFERENCE (& 12th AsiaTEFL International Conference) に本学会より学会代表者1名を派遣し、研究発表を行なった。大会参加の成果は学会ウェブサイトに掲載。

(2) 提携学会からの代表者受け入れ

第 53 回 (2014 年度) 国際大会および支部大会において提携学会からの代表者を受け入れ、招待講演に係る手配やアテンドを行い友好的な関係を促進した。

(3) 提携学会派遣代表者とビジネスミーティング

大学英語教育学会の提携学会からの代表者と第 53 回 (2014 年度) 国際大会中 (平成 26 年 8 月 29 日) に情報交換と今後の今日協力体制について話し合った。結果は運営会議にて報告した。

5 号事業報告：調査研究事業

(1) 基本語改訂

基本語改訂のための会議を計 4 回開催し、改訂作業を行った。

(2) ICT 調査研究

① シンポジウムの開催

平成 26 年 8 月 28 日に第 53 回 (2013 年度) 国際大会において JACET-ICT 調査研究特別委員会特別企画としてシンポジウムを開催した。全国で行われている ICT を活用した語学授業実践の最前線について発表し、情報を交換した。

② 講演会の開催

平成 26 年 12 月 19 日に早稲田大学で、次世代 e-Learning Forum を開催し、全国会員に向け講習会・講演会をおこなった。本講演会の成果は、報告書に掲載する。

③ 報告書の発刊

平成 26 年の活動と調査を報告書にまとめるとともに、論文や事例報告としてまとめ、会員が参考にできるようにした。

(3) グローバル人材育成

① 国際大会特別企画ポスタープレゼンテーション

平成 26 年 8 月 28 日から 8 月 30 日の 3 日間開催された第 53 回国際大会において、「グローバル人材育成のための大学英語教育の取り組み『第 2 弾』」としてポスタープレゼンテーション (第 1 分野：到達目標とその評価；第 2 分野：留学生派遣プログラム) を企画した。第 1 分野のポスタープレゼンテーションにおいては、グローバル人材育成のための大学英語教育の取り組みの中で、特に、「到達目標とその評価」に焦点を絞った取り組みの紹介をおこなった、また第 2 分野のポスタープレゼンテーションにおいては、留学生の派遣について先駆的な活動を行っている組織の取り組みの紹介をおこなった。第 1 分野 16 件と第 2 分野 30 件のポスターは『報告書 (紙版と PDF 版)』として文部科学省高等教育局に提出した。

② 2 年間計画

5 つの提案を具体的に実施するまでの筋道と方法論まで含んだ提案書を「外部試験大学実態調査」(第 1 班)、と「外部試験調査」(第 2 班) のそれぞれの担当班が作り上げ、国際大会においてグローバルポスターセッションと実用英語検定、IIBC、CIEE の外部試験 3 団体との特別シン

ポジウムを開催という形式で発表した。また、国際大会特別企画のグローバルポスターを含んだ形で『中間報告書（紙版と PDF 版）』を作成し、文部科学省高等教育局に提出した。JACET のウェブサイトにも各報告書（個人情報を除いたもの）を公開し、会員だけでなく社会に広く知らせて、本研究結果が利用できるようにした。

(4) 専門分野別の研究会活動

42 の研究会がそれぞれの分野での調査研究を基盤として、会員の資質向上、書籍出版、教材開発、紀要等での論文発表などの活動を行った。それにより、大学英語教育の発展に寄与し、会員相互の専門知識と技能の向上、会員の知見による学術の発展及び社会への還元を行った。また、各研究会の研究成果物を可能な限り公開できるように、そのための整理を行った。

6号事業報告：その他 法人事業

(1) 諸会議の開催

- ① 平成 26 年 5 月 25 日 平成 26 年度第 1 回理事会
- ② 平成 26 年 6 月 22 日 平成 26 年度第 2 回理事会
- ③ 平成 26 年 6 月 22 日 平成 26 年度第 1 回定時社員総会
- ④ 平成 26 年 8 月 27 日 平成 26 年度第 3 回理事会
- ⑤ 平成 26 年 12 月 21 日 平成 26 年度第 4 回理事会
- ⑥ 平成 27 年 3 月 21 日 平成 26 年度第 5 回理事会

(2) その他の委員会の開催

定例の各運営委員会、運営会議、顧問会議、支部委員会、支部役員会を適宜行った。

(3) 会員総会の開催

平成 26 年 8 月 28 日に会員総会を行った。平成 25 年度事業報告および平成 26 年度活動状況の報告、社員選挙に関する説明を会員に行い、意見交換をおこなった。

(4) 『会員名簿』の刊行

会員情報の提供、定款等規則の開示を目的として『一般社団法人大学英語教育学会（JACET）会員名簿』を平成 26 年 12 月 1 日に発行した。

(5) 社員選挙の実施

平成 26 年 10 月から 1 月 にかけて『社員選挙規程』に則り立候補および他薦を応募し、候補者を選出。候補者公示の後、異議申し立て期間を設置し、社員選挙を実施した。平成 27 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの社員 85 名を選挙した。

以上